



新潟教区報 第132号  
 2022 (令和4)年 3月15日 発行  
 編集/浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会  
 〒940-2402  
 新潟県長岡市与板町与板乙 4356 本願寺新潟別院内  
 TEL : 0258-72-2120  
 FAX : 0258-72-2536

新潟教区・本願寺新潟別院 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要  
 並びに別院再建二〇年記念法要に向けて

二〇二二(令和四)年十月二十一日・二十三日に修  
 行する、新潟教区慶讃法要の参拝者数が左記の通りに  
 決定しました。

各組参拝人数一覧

10月22日 (土)

組	人数
与板組	75名
元上組	50名
地蔵堂組	25名
合計	150名

10月23日 (日)

組	人数
長岡組	40名
三条組	40名
新潟組	20名
巻組	50名
合計	150名

両日合計 300名

また、広報部会では慶讃法要のポスターを作成中  
 す。四月中には、各寺院に配布予定です。  
 慶讃法要の名称の通り、本願寺新潟別院が再建され  
 てから、二十年が経ちます。今号の教区報では、本願  
 寺新潟別院の歩みを紹介します。

新潟教区には、元々与板別院と三条別院の二つの別  
 院がありました。与板別院は一八三〇(文政十二年)に  
 与板藩藩主井伊直経が本願寺へ別院建立を願い出ま  
 した。一八五二(嘉永六)年に新潟別院の現在地の土地  
 で本堂の工事が始まりました。一八六四(元治元)年信  
 濃川の対岸からの渡し船が沈み、労働者三十人が犠牲  
 になる事故が起きましたが、それでも多くの方々のご  
 苦労により、翌年の六月に本堂の立柱式が執り行われ  
 ました。しかし、幕末の混乱や戊辰戦争で工事が止ま  
 り、上棟式の用途がつかぬまま年を経ていきました。  
 その後、一時は柱が立ち腐れ寸前の状態でありまし  
 たが、瓜生(倉重)忠右衛門氏や中川正甫氏などの多

くの方のご尽力により一八七〇(明治三年)に念願の本堂が完成  
 しました。翌年には落慶法要が修行され、平成の世まで与板別  
 院として親しまれました。

三条別院は一八二八(文政十一年)年に発生した三条地震の犠牲  
 者追悼のため、建立が願われました。当地の有縁の方々が奔走  
 し、一八三二(天保三年)に建立されました。しかし、一八八〇  
 (明治十三年)、糸屋万平火事と呼ばれる大火が三条の町を襲い、  
 三条別院も被害に遭いました。一八八四(明治十七)年に別院再  
 建を果たしましたが、一九二〇(大正三年)、今度は放火によっ  
 て焼失しました。一九二七(昭和二年)に再建された別院本堂は  
 鉄筋コンクリート造りで、当時は木造建築が主流だったため、  
 モダンな外観であったとされています。

与板別院と三条別院は一九九七(平成九年)に合併し本願寺新  
 潟別院となり、これを機に旧与板別院は再建のため改築に着手  
 することとなりました。二〇〇〇(平成十二年)から工事が始ま  
 り、二年後の二〇〇二(平成十四)年に現在の庫裏と本堂が完成  
 し、翌年に即如門主(現在の前門様)のご親修で落成慶讃法要が  
 営まれました。

別院再建後も毎年六月二十五日〜二十七日は御取越報恩講  
 を、十月二十三日・二十四日は謝恩講法要を修行しています。  
 二〇〇八(平成二十一年)からは「お寺を子どもの居場所に」を  
 目指し、子ども報恩講を御取越報恩講期間中に行なっています。  
 二〇一二(平成二十四)年には、多くの有縁の方々が新潟別院に  
 集まり、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が盛大に行われました。  
 今回の慶讃法要では、新潟別院の護持発展に尽力していただ  
 いた皆様に感謝して素晴らしい法要を修行していきたいです。  
 現在はコロナ禍もあり、厳しい状況が続いていますが、皆様  
 と共に来たる法要に向けて機運を高めていきたいと思ひます。

## 法話 お蠟燭の灯り

本願寺派布教使 元上組極楽寺住職 麻田 弘潤

極楽寺では毎年本堂でキャンドルの灯りだけで楽しんでいただくコンサートを開催しています。このコンサートでは電気の照明は使わず、お寺の古蠟燭をいったん溶かして、蠟燭作家さんにリメイクしてもらったキャンドルで本堂を照らしています。数百本のキャンドルに照らされた空間はとても幻想的で、今では全国各地からお客様が集まる極楽寺の名物イベントとなっています。このイベントのおかげで私も、電気もすっかり蠟燭の灯りに魅了され、普段の夕方のお参りの時にも、電気を消して蠟燭を灯してお参りするのがお気に入りになります。

以前、私の恩師から、「蠟燭の灯りは阿弥陀様の救いの光をあらわしている」と教えていただいたことがあり、昔の人たちはこの灯りを見ながら阿弥陀様に思いを馳せたのかもしれないあと勝手に想像しながらお参りしているのですが、ある日、いつものように暗い仏間で蠟燭を灯してお参りしようと座ったところ、お仏壇の雰囲気がいっつもよりも暗く感じました。なぜだろう？と眺めていたのですが、お供え物の大きなメロンが蠟燭の灯りを遮り、それによって大きな影が出来ていることに気付きました。

電気の照明は暗いところが無いように全体を明るく照らしますが、蠟燭の灯りはそれほど強くありません。蠟燭の優しい灯りによって影が出来たことで、メロンの存在を強く感じることが出来たようです。きつと電気の照明ではここまで存在を意識することはなかったでしょう。

阿弥陀様のお救いもこのような効果があるのだと思います。阿弥陀様は「必ず救う」とあらゆる人に光を届けてくれています。その救いの光は際も無く、あらゆるところに届き照らす光です。私たちはさま

ざまな条件によって人に優劣をつけますが、阿弥陀様にとって私たちが感じる個々の違いは問題にならないということです。

そのような光に照らされた時、普段気付くことのなかった私の差別心や自己中心的な心が、影となって大きく映し出されます。

阿弥陀様のお救いの光はどこまでも照らすというと、まるで電気の強い光のように全てを明るくするイメージを持っている方も多いのかもしれませんが。

しかしそのイメージだと自己の影が見えなくなり、生き方を問わなくなってしまう。人を差別し傷つけることを「煩惱だからしかたない」「そんな私でも阿弥陀様は救ってください」と問題としなかったのが、かつての私たちでした。

阿弥陀様は蠟燭の灯りのように、私の影を大きく映し出し私の本当の姿を知らせてくださっているのです。だからこそ親鸞聖人は「浄土真宗に帰すれども 真実の心はありがたし 虚仮不実のわが身にて 清浄の心もさらになし」と「自身を見つめることができただけではないでしょうか。



# 長岡組主管 仏教壮年研修大会

日時 二〇二一(令和三年)十一月十八日(木) 十四時〜

会場 長岡組 長永寺本堂(オンライン開催)

テーマ 貧困の克服に向けて Dana for World Peace

―子どもたちを育むために―

講演 『長岡子ども笑顔プロジェクトとフードバンク活動について』 フードバンク長岡代表 山崎 一雄さん

法話 『阿弥陀様の心』 本願寺派布教使 長岡組長永寺住職 木曾 隆さん

## 仏壮大会の講演を聞いて

長岡組西楽寺門徒 川上 強

このたびの仏壮長岡組大会において、フードバンク長岡代表の山崎一雄氏の講演を聞きました。この組織は決まった施設や会場に、家庭にある食料品(お米、缶詰、レトルト食品など)を持ち寄り、食料の確保が困難な方々を支援する活動をするNPO法人です。

それによると長岡市の一人親子育て世帯は約千七百世帯。それに対してフードバンク支援世帯は百四十世帯。約八・二%ということでもあります。その主な活動は支援品の調達と配布であり、スタッフは無償ボランティア、活動資金は会員募集と寄付金依頼によるとのことでありました。現在の課題としては、①運営資金の調達 ②スタッフ人数の確保 ③支援物資の調達 であり、どれをとっても大きな課題となっているそうです。

今後の目標展望としては、①対象世帯を二百世帯に拡大したい ②支援体制の強化のために関係機関や相談窓口とのスムーズな連携 ③地元企業との連携 などがあるということでした。

私達は飽食の時代といわれる現代にありながら、貧困について無知、無関心でありがちです。身近なところをしつかり見据えて理解する事から全てが始まると思います。問題は身近にあります。私たち仏壮はそこから問題を発見し、解決の道を探るという点で大切な役割を担うべきだと思えました。そのような意味でこの大会は意義があるものとなりました。

# 与板組主管 門徒総代研修会

日時 二〇二一(令和三年)十二月十二日(日) 十三時三十分〜

会場 本願寺新潟別院 本堂(オンライン開催)

テーマ 「となりの親鸞」

講師 東京工業大学教授 中島 岳志さん

## 「福幸願念」のひまわり

与板組明元寺門徒 小黒 知也

中島岳志先生のご講演は、阪神淡路大震災の体験談から始まりました。先生のお話は、感動の余韻が残る素晴らしいお話でした。お話やリモートの画面に引き込まれ、メモを取っていませんでしたので、この紙面で文字としてお伝えすることはできませんが、梵鐘の澄んだ音がいつまでも響き続けるように先生のお話が今も私の心に響き続けています。

阪神淡路大震災発生の日は、自宅近くの親戚の葬儀の日で、私は早朝からお手伝いをしていました。地震に関しては直接体験された中島先生のような鮮明な記憶はありませんが、この日は、私も確かに死の悲しみや生命の尊厳に向き合っていた日でした。

二〇〇四年、新潟県中越地震が発生。翌年、ボランティア活動で神戸からお出でになった荒井さんから、復興への願いを込めたひまわりの苗をいただきました。そのひまわりを、私は「福幸願念」(復興元年)のひまわりと名付け、昨年まで毎年、採取した種や実生の苗から、花を咲かせ続けてきました。小学校教員として退職前最後の夏には、全校の子ども達と共に、校庭に約千五百輪の花を咲かせました。

この原稿を書いている今は、阪神淡路大震災が発生した日と同じ一月十七日の早朝です。

今年もまた、命の継続や福幸を願って、ひまわりの花を咲かせたいと思っています。



↑門徒総代研修会の様子

## 新潟教区 平和を誓う念仏者のつどい

日時 二〇二一年(令和三年)十二月二日(木) 十三時三十分

会場 本願寺新潟別院 本堂(オンライン開催)

講演 「歴史に学ぶ 浄土真宗と戦争」

講師 元龍谷大学学長・本願寺史料研究所長 赤松 徹眞さん

### 平和を誓う念仏者のつどいに参加して

社会実践部会員 巻組西永寺住職 日野 憲一

『新潟教区全戦没者追悼法要』は参拝者の定員を設け、部会員のみの出勤としました。感染拡大が落ち着き、以前のように大勢で賑やかに出勤できることを願うばかりです。

「本願寺教団は戦争に加担してきた歴史がある」という言葉をこれまでさまざまな研修会等で何度となく聞いてきました。今回の赤松先生の講演を聴き、「戦争に加担」の内容を私は十分に理解していなかったことに気づきました。

先生は初めに私たちが直面している現在までの地球規模にわたるさまざまな課題について例を挙げながら説明されました。「歴史を学ぶ」ということは「私たちのあり方」をみ教えに学びながら、軍事力・暴力行為を直視し、平和を求め社会に発信することが重要であると指摘されました。

また、本願寺教団による明治維新後の国家神道への迎合、戦時教学の推進について解説されました。今となつては誰が聞いても間違つた選択をしてきた事実がありました。二度と同じ過ちを繰り返してはならないと強く感じました。終戦後の反戦と平和への取り組みと、現在の軍事に関する世界情勢と日本のかわりについての説明から、私たちに常に平和を求める行動と、市民・民間・



↑講演の様子

宗教間レベルの交流や対話を進めていくことが必要だと再確認しました。

私たちにできることは小さいかもしれませんが、し、平和への歩みの一步として、『浄土真宗のみ教え』の「穏やかな顔と優しい言葉 喜びも 悲しみも 分かち合い」という文言を具現するためにも、この『平和を誓う念仏者のつどい』を今後も続けていくことが大切であることをこの講演を聴いて実感しました。

## 新潟別院公開講座 「みんなで学ぶ歎異抄」

会場 本願寺新潟別院 本堂

講師 本願寺派輔教 与板組光源寺住職 清水 正朋さん

本願寺派輔教 長岡組西福寺住職 高橋 純明さん

### 「みんなで学ぶ歎異抄」を聴聞して

与板組 雲外寺 門徒 丸山 正義

本願寺新潟別院の公開講座「みんなで学ぶ歎異抄」を受講し、原稿を書いてくださいと依頼され、気楽に引き受けましたが、いざ書くころと思えば、と、はて、何を書けばとペンが止まり先に進みません。

まずは受講を思い返してみ、一回目、二回目は親鸞聖人と唯円房との出会い。親鸞聖人五十歳の時唯円さん誕生、唯円十一歳の時聖人関東より帰洛。直接の関わりは約四十年間かなと思、伝道が正しく伝わることの難しいこと。第一条、弥陀の誓願から始まり、本願とは聞ききました。第二条、極楽浄土に往生する道を聞きたいという思いから訪ね、聖人より「ただ念仏するだけ」と諭され、疑問に思うのであれば、「奈良や比叡山の学僧に聞いてください」と突き放すきつい一言。第三条、悪人正機説を正されています。私は悪人、善人、どう見ても善人ではなし、悪人以外の何者でもないと思いつつ、その後の講義を毎回受講させていただいています。

深い話を聞き、「そうだな そうだな」と解つたつもりで受講後本堂を出ると、わからない、難しかったと浅知恵の自分を知らされます。この公開講座や他の法座がある度に出かけ、法に聞いていきなさいと聴聞しております。生きる事とは自己中心の生き方しかできない自分がいる事に右往左往としております。

このような自分を見ると思い出されるのは、「譬喩水火二河白道図」で、二河白道上にいる私、進むうか戻ろうかです。東の岸より、釈迦の発遣「君恐れず決定し、この道を探ねて行け」西の岸より、弥陀の招喚「我にまかせよ、我にたよれ」と、兩岸より勧められその通りにと、心ではわかっているつもりです。しかし日常の生活ではすっかり忘れていきます。

なので、法座があると、寺に足を運んでお話を聴聞しているのです。

# 本願寺新潟別院 記念事業について

本願寺新潟別院では、二〇二二(令和四)年十月二十二日(土)二十三日(日)に修行する「新潟教区・本願寺新潟別院 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年並びに別院再建二〇年記念法要」に向けて、記念行事として別院の外壁塗装と照明器具の交換を行ないます。

外壁塗装については、二〇一四年に行なうて以来八年、その後も風雨や着雪に晒され、下見板の塗装剥離(写真上部)や白壁の剥離(写真下部)が顕著となつていきます。建物を守り老朽化を防ぐために今回の外壁塗装は必要不可欠な事業と言えます。

現在の進捗状況は塗装をする業者を選定して、工事期間まで準備をしています。塗装終了後綺麗になった別院を見ることが今から楽しみです。

(5)



↑ 塗装が剥離している下見板 →



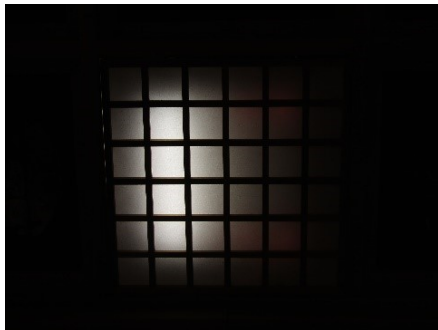
← 白壁にもひび割れや剥離がみられる ↓



照明器具は別院再建から二十年が経過し、老朽化が至る所で見られています。本堂や庫裏では既に器具の一部が故障し照明が点灯しない箇所が年々増えてきています。また、ご参拝者やご来院の方からも「照明が暗い」や「点滅が気になる」等の声を多くいただきました。今までは蛍光灯の交換を行なうてどうかやりくりしていましたが、複数の大手企業で従来の蛍光灯の生産終了を行なうてLED器具への移行を進めています。このような状況から別院でも記念事業で照明器具を従来の照明器具からLED化への交換を行ないます。

LED化のメリットとしては、従来の照明器具に比べ消費電力が大幅に減少するといわれています。LED化後の消費電力の試算では現在の約三分の一になると予想しています。

また、新たに器具を交換することで今まで故障によって点灯していなかった照明部分が点灯し、現在より明るい会場となります。



↑ 本堂内陣の照明  
右側が器具の故障により点灯していない。



↑ 本堂外陣の照明  
二ヶ所点灯していない。



↑ 事務所の照明  
奥の照明は器具の故障により蛍光灯を外している。

記念事業の工事が終了し、より綺麗に、より明るくなった新潟別院で皆様と一緒に慶讃法要をお迎えする時を心待ちにしています。皆さまも積極的な慶讃法要参拝をお願いいたします。

現在照明器具の方の進捗状況も業者を選定して、工事期間まで準備をしています。

# 寺院巡り

## 三条組 長念寺

ちょうねんじ

住所 新潟県三条市大字大面八一―甲  
電話 〇二五六―四五―二三九九

長念寺の創立は一三〇九年と記され、初代住職は、千葉県総州の権正元重という方です。同国の勝願寺慶知住職から仏の功徳を教えられ、剃髪、仏門に入り慶蓮と名乗ったのが始まりです。

それから一四六七年に応仁の乱が始まり、難をさげ総州から信州、今の長野県小県郡にお堂を建てました。その後、後柏原天皇の時代（一五〇〇〜一五二五）に、越後の国新堀村に移り、布教に励まれたという事です。一六七八年には新発田藩に申し出て、今の大面村に移りましたが、火災に遭遇し、現在の本堂は、慶應二年七月十日に上棟したものです。

地元の大面小学校で、平成五年度に発行されました『大面つ子いろはカルタ』では、長念寺の事を『越後には ふきよう(布教)のおつげ 長念寺』と紹介されています。その紹介文を励みとして、今では七つの年齢別の教化団体が組織され、年に一回、教化団体の集いを開催し、家族礼拝を進めています。

写真は、大面小学校と協力しての授業風景です。明治天皇が、明治十一年に東北御巡幸の折、小休止とされたという事で、毎年訪問されます。時節柄、野外にての活動になりましたが、お寺の魅力もあわせて伝えていきます。



教務所・別院からのお知らせ(会場記載がないものは新潟別院で行います)  
令和四年度 年間行事予定

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止や延期となる場合がございます。ご確認のうえ、お申込み・ご参加ください。

### ▽御取越報恩講

期日 六月二十五日(土)〜二十七日(月)

ご講師(予定) 本願寺派布教使 奈良教区勝光寺 花岡 静人さん

### ▽新潟教区得度講習会及び得度考査

期日 講習会 八月十八日(木)・十九日(金)  
考査 八月二十二日(月)

### ▽新潟教区・本願寺新潟別院 親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要並びに別院再建二〇年記念法要

期日 十月二十二日(土)・二十三日(日)  
記念行事 本宮 宏美さんによるフルート演奏

### ▽謝恩講

期日 十月二十四日(月)

ご講師 未定

### ▽常例法座

期日 四・六・七・十・十一・三月 いずれの月も九日に開催

### 得度

十二月十五日 与板組 隆泉寺 上戸 摩耶さん(釋摩耶)

十二月十五日 新潟組 真行寺 本多 深悠さん(釋深悠)

お悔やみ 生前のご功労を偲び、謹んでお悔やみ申しあげます。

(令和三年十一月十五日〜令和四年二月二十日)

十一月十五日 長岡組 本明寺住職 福本 利夫さん(九十二)

十一月十五日 元上組 明鏡寺前坊守 井上 フサ子さん(九十四)

十二月二十二日 新潟組 真称寺住職 廣川 智彰さん(八十六)

広報部会では教区報とホームページについてのご意見・ご感想を募集しています。ご意見・ご感想等ある方は新潟教区教務所へ電話またはメールにてご連絡ください。よろしくお願ひします。